

分類	内容	対応	
1	スマホ入門講座	10/22.27、1/6.20スマホ入門講座を2回実施。	毎回、申し込み希望が多く、定員に対して2倍以上の希望。9月に引き続き10月以降も往復はがきによる受付にしたが、希望者は同じく定員20人に対して、32名の申し込みがあった。現在は少し落ち着いて来ている。
2	スマホ相談会	10/3.11/7.11/9.12/6.1/24の5回実施。	今回の相談会は、10月11月12月に行い計4日間で計61名の方が相談会を利用された。
3	スマホ定期相談会	菊屋文具店の奥にあるスペースを利用して定期的にスマホ相談会を開催。	継続して学ぶ場として10月11日(火)25(火)、11月15日(火)29日(火)に開催し、12月からは毎週火曜日実施することとした。一日平均11名程度の方が利用されている。
4	サブスタッフ卒業生交流会	11/29萌え木ホールにて第2回卒業生交流会実施。	「サブスタッフ卒業生 名称」を「サブソツサポーター」に決定した。「活動団体紹介」・「新たなボランティアについて」各地域包括支援センターの第2層生活支援コーディネーターに各圏域のサロン活動の紹介をしてもらい、既にサロンで活動している参加者からも活動の様子を伺った。8名参加。
5	東京ホームタウンプロジェクト	10/8、第2回高齢者になるとおこりうること啓発パンフレットづくり検討会ワークショップ実施。	約42名参加。金融機関、地域住民、老人クラブ、協議体委員が集まり、この課題を解決に向け、グループで啓発等の意見を伺った。第3回は2/13実施予定。
6		11/9お元気サミット・介護みらいフェス「高齢者になるとおこりうる、あんなことこんなこと」についてワークショップ実施	高齢者になるとおこりうる「お金の管理に関するお困りごと」の経緯を動画で撮影したものを見てもらい、プロボノワーカーと市民と一緒に考えるワークショップを実施した。「啓発パンフレットの内容について」「お金の管理について」アンケートを実施した。16名参加
7		12/14、お隣さんカフェ 高齢期のお金の管理について	お隣さんカフェから介護福祉課へ講演依頼。一緒に考えよう！「高齢期のお金の管理」として、生活支援コーディネーター4名で、朗読劇を実施。とても良い反応だった。(約40名参加)
8		12/15、プロボノワーカーから啓発の関する提案としてカスタマージャーニーマップの提出及び説明	小金井市に即したカスタマージャーニーマップを作成し、完成版を納品予定。小金井市版カスタマージャーニーマップと啓発パンフレットを使い、第3回ワークショップでどのような啓発を行うか検討をする。
9	男性が集まる場所	昨年度より「男性の介護者サポーター養成講座」を実施。養成講座卒業生は委託先のアップツリー主催の「男性介護者の哲学カフェ」に参加し居場所となっている。参加者が少ないことが課題だが、今後も開催していく予定。また、既存団体の周知や応援ブック・マップに未掲載への掲載アプローチを行う。男性が一人になった際の生活について、自分ごととして考えていない男性や家族に啓発をしていく。	
10	個別課題から見てきた地域課題	臨機応変、迅速対応、安い	臨機応変、迅速対応、安いサービスとしては、民間サービスの方がより適したサービスがあると思われる。介護保険サービス以外の適した公的サービスはないため、現在行っている自費ヘルパーの情報収集を引き続き行い、適した民間サービス等の活用としての情報提供をしていきたい。
11		ちょっとした手伝い	ボランティアを含め何かしたいと思っている地域資源の把握や、その地域資源にアプローチしつつヒアリングで意見を求めたり、その中でボランティアの調整機能等の話になるのであれば、協議体委員の中に社会福祉協議会選出の委員に意見を求める等で解決を図っていく。
12		書類の書き方	個人情報の問題と不可分なので、支援できる人間が士業、行政、親族等限られてくると考えられる。また、書き方が分からない原因として書類の内容が難しいのか、認知機能の低下なのかでも支援の仕方が異なる。具体的な書類の書き方の指南については、書類の送付元に確認していただいたうえで、可能であれば高齢者の近隣住民やご家族と助け合いながら解決してほしい。
13	応援マップについて	令和4年12月23日に市に2,000部、各包括支援センターに500部の納品あり	配架場所は介護福祉課及び市役所第二庁舎一階受付、各地域包括支援センター、公民館本館及び分館、図書館本館及び分館、各集会施設、保健センター(貫井北町5-18-18)、社会福祉協議会、小金井市観光まちおこし協会。また、市報とホームページ及びツイッターで周知を行う。
14	スマホサポーター養成について	高齢者のスマホニーズに対応するため、スマホサポーターの養成を行う	東京スマホ研究会に協力いただき、サポーター養成を行う。養成講座終了後はスマホ講座の運営補助および、相談会等で活動できるような活動の場を作る。